ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E142K017	人体解剖学 (Human Anatomy)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	2	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫		他	日本語		単独

担当教員	氏名　右田　孝志（非常勤講師） E-mail　　内線
授業の概要	人体を構成する細胞、組織、器官の形態および構造のなかで、保健体育の教員に求められる専門的知識として重要なのものの基本を系統的に学ぶ。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	保健体育教員として求められる基本的な知識としての解剖学用語を説明できる		○	○					
目標2	保健体育教員として求められる基本的な知識としての器官系、組織系を分類できる		○	○					
目標3	保健体育教員として求められる基本的な知識としての各種器官系の代表的な構造、構成を説明できる		○	○					
目標4									
目標5									
目標6									
目標7									
目標8									
目標9									
目標10									
	各DPへの関連度（計10）		5	5					

授業の内容	
1	ガイダンス、細胞、器官系
2	組織、靭帯の外形と方向用語
3	神経系　－総論と中枢神経系
4	神経系　－末梢神経と伝導路
5	器官、組織、神経系のまとめ
6	骨格系　－総論－
7	骨格系　－各論－
8	筋系　－総論－
9	筋系　－各論－
10	運動器のまとめ
11	感覚器系
12	呼吸器系
13	循環器系　－血管の基本と心臓－
14	循環器系　－動脈、静脈、リンパ－
15	感覚器、呼吸循環器系のまとめ

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	知識の定着およびその確認のために、口頭試問形式で質疑応答を行い、また小テストも行う。		質疑応答やプレゼンテーションなどを取り入れるなど。
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	1～4、6～9および11～14限は各回のテーマに関する用語を整理しておく。 5、10および15限はそれまでの授業内容で不明な点を整理しておく（30H）。
	事後学修	各回の授業内容を整理してまとめる（15H）。
	想定時間合計	45

教科書	資料配布
参考書	入門人体解剖学　藤田恒夫著　南江堂 解剖生理学ノート　増田敦子監修　サイオ出版

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト	20%	○	○								
	定期試験	70%	○	○								
	事前学習への取り組み	10%	○	○								

注意事項	申し出のあった場合以外、授業中の飲食は禁止。 授業環境の妨げになる場合は受講を認めない場合がある。
備考	予習を推奨する
リンク	
	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	当該科目に関係する科目では10年ほどの経験を有する